

Title	三田史学会大会；西洋史学会例会；東洋史専攻大学院研究発表会； 昭和四六年度大学院文学研究科修士課程卒業論文題目；人類学研究会； 昭和四六年度文学研究科東洋史専攻修士論文題目；昭和四六年度史学科卒業論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1972
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.44, No.4 (1972. 4) ,p.113(505)- 118(510)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19720410-0113

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

三田史学会大会

昭和四六年十月二十三日(土)

慶応義塾大学三田・西校舎五一七番教室

マルグリット・ドゥ・ナヴァールとその周辺

一瀬美樹子氏

エリザベス朝のネーデルラント政策

今村三南子氏

東パキスタン成立の事情

臼田 雅之氏

荀子の「国家」に於ける「君子」

高山 方尚氏

漢式鏡における Design System のこと

——内行花文鏡の場合——

藤村 東男氏

安藤昌益「統道真伝」について

山田 忠雄氏

公開講演

歴史の進歩について

神山 四郎氏

会務報告

懇親会(塾監局第三会議室)

西洋史学会例会

第五八回、昭和四六年六月一日(木)

史学共同研究室

The Provisions of Oxford から The Provisions of

Westminster

森岡敬一郎氏

第五九回、昭和四六年一〇月二一日(木)

史学共同研究室

アラゴンのモリスコススの追放をめぐる

——アラゴン王立文書館の文書から

岩谷十二郎氏

ハルデンベルクと国民代表制の問題

東畑 隆介氏

第六〇回、昭和四六年十一月二五日(木)

史学共同研究室

トゥリイ植民について

真下 英信氏

A・トクヴィルについて

国分 由恵氏

第六一回、昭和四六年十二月一四日(火)

史学共同研究室

シュペンゲラーにおける象徴主義についての一考察 雄上統氏

東洋史専攻大学院研究発表会

昭和四六年十月九日(土) 於西校舎五二七番教室

一八六二年大平天国軍包囲下の上海に於ける紳士の活躍——外

国への援助要請活動を中心として—— 森田 善太

ガザン汗のシリア遠征とディヤールバクルのネストリウス派教

団——イル汗国とマムルーク朝の関係史に寄せて—— 坂本 勉

昭和四六年十二月四日(土) 於南校舎四二二番教室

清初浙江省における賦役改革 浅井 紀

アラビアの外科医療について 稲葉 信正

昭和四六年十二月十八日 南校舎四二二番教室

崑崙の玉について 福田ひろ子

人類学研究会

昭和四六年五月十日 於東洋史共同研究室

台湾アン族調査報告

瀬良 重夫
馬淵 悟

榊野 玲子 秩父事件研究序説——秩父事件の社会経済的背景
乙川 博士 城下町の領国支配機能の弛緩——越後高田の場合
柴田 利雄 山背遷都論
富沢 清人 「在家」身分について——鎌倉期農民論序説
山崎 勇 中世東国における二つの村落

昭和四六年九月二十日 於東洋史共同研究室

ボルネオ・イバン族調査報告

八束美由紀

昭和四六年度文学研究科東洋史専攻修士

昭和四六年十月十一日於東洋史共同研究室

入墨

羽田 信

論文題目

昭和四六年十一月十五日 於東洋史学研究室

ティン・ティン・バック

近森 正

東洋史専攻
荒木 稔江 長安における丹仁の求法と会昌の仏教弾圧に関する
「一考察」

昭和四六年十一月二十二日 於東洋史学研究室

アフガニスタンの家庭生活

柳本 杏美

浅井 紀 清初浙江省における賦役改革
福田ひろ子 崑崙の玉に関する一考察
川口 国昭 徐霞客遊記の研究

昭和四六年十一月二十九日 於東洋史学研究室

花嫁代償・ポトラッチ・社会的交換

本田 貞行

野村 秀明 ムハンマド・アリーの改革に関する一考察

昭和四六年十二月六日 於東洋史学研究室

全 員

坂本 勉 ガザン汗のイスラム改宗とディヤールバクルのネ
ストリウス派教団

昭和四六年度大学院文学研究科修士課程

卒業論文題目

西洋史学専攻

国史学専攻

石松久美子 関東における河岸場の機能と構造——佐原河岸伊能

一瀬美樹子 マルグリット・ドゥ・ナヴァルとその周辺
今村三南子 エリザベス朝のネーデルラント政策
国分 由恵 トックヴェルについて
雄上 統 シュペングラーにおける歴史論についての一考察

和智 匡雄 三月革命とケルン

昭和四六年度史学科卒業論文題目

国史学専攻

- 藤沢都志子 継体天皇即位をめぐる諸問題
楮本 武司 縄文文化期の共同体に就いて
柏瀬 充子 「貝輪」の研究
向後由美子 熱田神宮の成立と草薙剣に関する一考察
長倉 樹 御朱印社寺領の成立と日光東照宮神領について
岡島 格 甕式土器に於ける文様変遷論
大勝 芳子 紫微中台の設置をめぐる——光明皇后を中心として
鈴木美千子 土偶の研究
高野 洋子 魏志倭人伝に見えた「倭」について
綿引 道江 推古朝における聖徳太子に関する研究
楠元 和子 奈良時代寺院の伽藍配置と規模
岩崎多恵子 古代の女帝
佐原 史郎 大嘗祭について
斎藤美佐子 実践活動を通してみた行基に関する一考察
島野 恵子 海幸山幸神話考
菅 恭子 出雲神話に関する一考察
鳥越喜久子 光明立后をめぐる
山口 真澄 大仏造営における労働力について
- 吉川由紀子 仲麻呂政権の成立期の諸問題
吉村 マリ 古代における罪と被について
富永 裕美 倭漢氏の史的構造
五島 文字 奈良時代の婚姻形態について
稲見真理子 彫刻史における藤原様式の成立
西山 直子 茶と禪との関係
小口満里子 長次郎焼についての一考察
藤本 正行 三鍬形に関する一考察
郷道 哲章 鎌倉幕府創設期における守護と御家人の関係について——主として比企氏を中心として
伊東 厚子 白河院政についての一考察
糸賀 茂男 九・十世紀東国における諸問題——将門の乱を中心として
桂 啓子 清盛の敵島信仰について
久保田洋子 六角氏征伐について
牧田 敏志 上野国新田庄の社会的発展
佐々木公子 中世の農民構造——上久世庄荘官真板氏を中心に
吉沢 秀子 中世利根川流域平野の開発と村落
堀内みどり 長崎貿易史上における正徳新令の意義
今井 一博 塩留と兵糧
猪瀬 和子 キリシタン迫害の思想上の原因——特に武士道との交渉について
石場 達雄 富山県における一九一八年の米騒動

石原 直子 心学思想に連なる町人意識

石川 雅子 江戸時代前期における武蔵野新田開発

岩崎喜代子 キリシタン布教初期におけるイエズス会の医療事業の社会史的意義

川口 富久 水戸藩の尊攘運動——安政五年の勅諭降下とその影響を中心として

河村 孝治 惣村の共同体的視角をめぐっての一考察——近江国菅浦庄を中心に

小島 佳子 荻生徂徠の貨幣経済論について——その幣制論と過渡的人格

西山 春夫 近世中期の灯油統制——享保改革の一視点

田代みゆき 「御蔭参り」——民衆闘争への可能性について

渡辺 敬子 「破吉利支丹」を中心とする僧侶の排耶書——寺請制度との関連において

馬場三生子 江戸時代および明治時代における「家」と「家族」の一考察

榎田多恵子 明治初・中期における女子教育政策の転換と明治国家成立要因との関連についての一考察

森谷 潤 明治政府樹立過程に於ける農民闘争

酒井 孝幸 幸徳秋水の思想形成

田中由紀子 「ええじゃないか」と明治維新

寺門ふさ子 近世人身売買に関する考察

塚崎美代子 「家」の研究

山本 泰子 海苔と諏訪

八島 寿男 佐野学とその転向について

東洋史専攻

安倍 道子 中国古代における巫医の社会的地位の変遷

井上恵美子 古代中国の朱に関する若干の考察

小野 衣子 中国古代医学における陰陽観——黄帝内経と傷寒論について

小林百合子 東西交渉史上の脈搏学考

三条 彰久 楊朱および「列子」楊朱篇について

八束美由紀 Ipan 族の Ikat

柳井由美子 穆天子伝の成立

李 翠芳 万里長城成立に関する一考察

榊田真知子 フォルコン夫人

北岡 康世 ベトナム・カンボジア交渉史

栗本 一枝 タイ北西部およびビルマ東部の山地民族における死の観念について

新木みどり シタールの起源について

黒川 百代 宋代における茶貿易の一考察

笹谷 文夫 李長吉と中唐の社会
 鈴木 久雄 イスラム王国時代とポルトガル領時代のマラッカ
 佐藤 明子 古代中国の天地構造論と説話との関係
 佐藤 俊夫 王莽——王田・私属政策から見た——
 窪木 秀心 抗日戦争時期の中国解放区における共同労働組織
 熊沢 広 樽井藤吉と朝鮮——日本人の朝鮮意識——
 石井 建 阿片戦争における漢奸
 太田恒比古 中国の近代化と中国的伝統——太平天国に見る——
 滝口千賀子 孫文思想の発展と転換

西洋史学専攻

飯島百合子 カール大帝の戴冠
 石黒 通子 エトルリア人の起源について
 石川 幸子 ギリシア神話の起源
 秀島 淑子 紀元三世紀におけるローマ帝国の都市問題
 小西 哲 魔女裁別
 大野真理子 ペリクレスとパルテノン
 太田万理子 古王国時代のファラオの王権
 田辺三千広 ロシア教会の成立
 手塚 不器 カルヴェイニズムと資本主義
 富沢 淑子 南部メソポタミアにおける統一王朝の成立
 山口 映子 ヘロットについて

山崎 順 旧約聖書のヘテ人を求めて
 横井由紀子 ミケーネ時代の王墓と王権の性格
 横倉 道隆 西欧中世の個人
 相沢 優子 イブン・ハルドゥン、人と思想
 江口 博子 アクトン
 星 晃洋 ビアードの歴史観とその背景
 池辺 孟 ニコライ・ベルジャエフ
 水谷喜久江 ピューリタン革命前におけるピューリタン運動
 村上 啓子 ドイツ三月革命期における自由主義運動と大衆運動
 酒井 協子 新史学とJ・H・ロビンソン
 会田 陽子 フランス革命における農民革命について——北部フランスを中心に——
 秋葉早知子 アメリカにおける魔女裁別
 秋山 道子 テューダー朝における救貧論と救貧法の成立
 舟橋 葉子 イギリス革命における水平派運動——一六四七年を中心に——
 平野 彰子 イギリス革命における「プロテクター政権」の成立について
 松本 章子 一五世紀末におけるフロレンスの政治および構造
 村井 敏雄 中世低地々方の都市におけるデモクラシー
 落合 由記 リシュリユの絶対王権
 佐藤めぐみ スペインのネーデルラント統治
 手島ひろみ コルベール

鳥居塚弓子 一九一六年アイルランドの復活祭蜂起をめぐる考察

山崎 佳子 一六、一七世紀のイギリス・ヨーロッパ

矢田貝 実 ビトリアの正当戦争論

錢村 勝二 アメリカ革命——植民地の自治

千葉 孝治 日独関係一九三三—四〇年

藤田 英子 冷戦の起源についての一考察

板倉 久子 コミンテルン・一九一九—一九二三年

小林香世子 第一次大戦とアメリカ参戦

守 真知子 ドイツ革命におけるレーテ

村田 嘉夫 ジョセフ・チェンバレンの新急進主義とその展開

大沢 通夫 ワイマル共和国と国防軍

瀬川 京子 フランクリン・ローズヴェルトのニュー・ディール

政策について

荘 知子 ヴェイスマルク外交政策——特にオーストリア政策に關

して——

東海林 明

レオナルド・ブルニを中心として——

竹中 有男 スペイン内乱における不干渉政策成立についての

考察

堤 慎一 フィッツジェラルドと「ジャズ時代」

山田ルミ子 スペイン内乱初期をめぐる諸問題

米原 康子 一九二〇年以後のアメリカの新孤立主義の原因

執 筆 者 紹 介

和田 博 徳 慶応義塾大学文学部教授

東 畑 隆 介 同 助教授

高 瀬 弘 一 郎 同 助教授

小 川 英 雄 同 助教授

中 井 信 彦 同 教 授

高 橋 正 彦 同 助教授